

# 平成28年度 千葉市少年サッカー大会 3年生以下の部

## 決勝

日時 2016年 7月 16日(土)  
試合会場 エスタディオ サンフット  
気象状況 天候; 曇り ピッチ状況 人工芝  
キックオフ 10時30分

対戦チーム 

Wings U-12
------------

高洲コスモス ロッソ
------------

### 試合結果

8		4	前 半		0	0
		4		後 半	0	
		-		(PK)	-	

### 戦 評

千葉市の頂点をかけた決勝戦は、予選リーグから安定した攻撃力で勝ちあがったWings U-12(以下、Wings)と決勝トーナメントではPK戦も制してきた高洲コスモス ロッソ(以下、コスモス)の2チームの戦いとなった。

両チームともやや緊張気味の中、コスモスのキックオフで試合は開始された。開始直後の1分には、ドリブルで切れ込んだWings40番杉岡侑樹くんがファーストシュートを放つ。これはコスモスGK29番安倍くんがしっかりとキャッチする。このシュートでリラックスできたWingsが持ち前のパスワークでコスモスゴールに襲い掛かる。続く2分、先ほどの挽回とばかりWings40番杉岡侑樹くんがゴール前の混戦から抜け出て先制点となるゴール決める。コスモスも失点に気落ちすることなく、いつものプレーに集中しようとするが、Wingsの早いプレスになかなか自分たちのサッカーをさせてもらえない様子で、守備の時間が長くなり始める。そして6分、ボールを支配していたWingsが再びコスモスゴールを襲う。右サイドを崩した後に入れたクロスに左サイドから走りこんだ40番杉岡侑樹くんが対応し、落ち着いて2点目を決める。その後もWingsペースで試合は進み、9分には左サイドから送られたクロスに54番杉岡洸くんが反応し、ゴール中央へ3点目となるシュートを決める。コスモスもなんとかWingsゴール前へボールを運ぼうとするが、なかなか縦へのボールを入れさせてもらえない。その後の11分には、またもWings54番杉岡洸くんが角度の無いところから技ありのシュートを決める。既に点差は4点となってしまったが、ここからは流れはコスモスに変わり始める。85番稲田くん、47番元木くん、62番鹿住くん、84番山崎くんらが中心となってWings陣内でのプレー時間が増え始める。なんとかゴールを決めて流れを確実にしたいコスモスではあったが、WingsDF陣の52番前城くん、49番高橋くん、51番福尾くんらがシュートチャンスを与えない粘り強い守備を見せる。コスモスも再三ゴールまであと一歩というところまで攻撃を繰り返すが、その最中に前半終了のホイッスルとなり、Wings4-0コスモスの結果で前半を終えた。

後半はWingsのキックオフで開始となる。何とか前半終了前の勢いをつなげたいコスモスではあったが、開始1分にハーフライン付近中央でFKを与えてしまう。これをWings49番高橋くんがなんとダイレクトでゴール上に突き刺し、会場もどよめくロングシュートを見事に決めた。この後半早々の見事なシュートでコスモスもやや集中が切れたのか、続く2分にも54番杉岡洸くんとのコンビネーションで崩した40番杉岡侑樹くんが、4分には同じく40番杉岡侑樹くんが、そして8分にはゴール前混戦でこぼれたボールをまたも40番杉岡侑樹くんが、と立て続けにゴールを決め、一気に8点差まで点差を広げた。しかし、コスモスもあきらめない。後半10分以降はコスモスGK29番安倍くん、DF83番木俣くんらが何度もファインプレーを見せれば、ポジションを右SHIに変えた62番鹿住くんは再三にわたり右サイドを崩しWings陣内を脅かす。13分には、何度もWingsからコーナーキックを取るなど、互角と言っていいい展開に持ち込んでいる。緊迫する展開となっていたところではあったが、ここで試合の終了を告げるホイッスルが鳴り、Wingsの優勝とコスモスの準優勝が決定した。

点差が開いた試合とはなったが、けしてWingsの一方的なゲーム展開ではなく、前半、後半ともにそれぞれのチームに流れが出る展開であり、観戦していても緊張感のある試合であった。

優勝したWingsは個人技はもちろんだが、チームとしての攻守のバランスが良く、8人制サッカーを各選手がよく理解して動きにつなげる努力を続けていたところが非常に印象的であった。

両チーム、メンバーのこれからのますますの成長を楽しみにしながら、心より拍手を送りたい。

# 平成28年度 千葉市少年サッカー大会 3年生以下の部

## 準決勝 Bコート

日時 2016年 7月 16日(土)  
試合会場 エスタディオ サンフット  
気象状況 天候: 曇り ピッチ状況 人工芝  
キックオフ 9時00分

対戦チーム 

Wings U-12
------------

アブレイズ千葉SC
-----------

### 試合結果

6		5 1 -	前 半 後 半 (PK)	0 1 -	1
---	--	-------------	--------------------	-------------	---

### 戦 評

雨天順延となりエスタディオ サンフットで行われた準決勝Bコート。Wings U-12(以下、Wings)とアブレイズ千葉SC(以下、アブレイズ)との顔合わせとなった。

試合開始早々から、Wingsが主導権を握り試合を進める。前半1分、Wings45番岡田くんがペナルティエリア外右サイドから最初のシュートを放つと、同3分にはWings55番上野くんがペナルティエリア内中央からシュート。対するアブレイズは、GK30番茂原くんを中心に懸命なディフェンスを見せると、同4分、味方DFのクリアボールからのカウンターでアブレイズ10番近藤くんが中央ドリブルで持ち込みシュート。しかしここはWings GK1番大塚くんがクリアする。

試合が動いたのは前半5分、アブレイズ陣地ゴール前の混戦からWings55番上野くんがこぼれ球をシュート、これがゴールへと突き刺さり、待望の先制点となる。このゴールで勢いづいたWingsは、40番杉岡侑樹くんがスピードのあるドリブルを魅せ、同7分には中央から、8分には左サイドからシュートし立て続けに2得点を決めた。その後もWingsの猛攻は続き、同10分には40番杉岡侑樹くんが自陣中央から右サイドの45番岡田くんを展開すると、岡田くんがドリブルで駆け上がりゴール前へ正確なクロスボールを上げ、ファーサイドに詰めていた54番杉岡洸くんがきっちりと合わせて4点目。続く11分には中央54番杉岡洸くんが左サイドから中央に駆け上がってきた40番杉岡侑樹くんに見事なスルーパスを通すと、これをゴール左隅に冷静にハットトリックとなるゴールを決めて前半を5-0で折り返した。

後半、アブレイズは10番近藤くんをDFとして相手の攻撃を封じる一方、11番池本くんを起点に攻撃を組み立てる布陣として臨むと、これが機能する。後半1分、11番池本くんからの4番米山くんへのスルーパスは惜しくもオフサイドとなるが、相手陣内でのプレーも徐々に増える。後半2分にはこの日4得点目となるゴールをWings40番杉岡侑樹くんを決められるが、同4分には10番近藤くんが右サイドから中央へドリブルしながらミドルシュート。同9分には11番池本くんが右サイドでドリブルからコーナーキックのチャンスを作り出せば、続く10分には10番近藤くんがまたもドリブルで相手をおかしシュートを放つなど、アブレイズにも得点チャンスが多くみられるようになった。

すると同12分には、チームとしても攻撃のリズムを取り戻す。アブレイズ11番池本くんの中央からやや左サイドへのスルーパスを5番寶田くんがフリーでボールを受け、ドリブルで持ち込みシュート。これはクリアされるが、そこからコーナーキックを得ると、同13分にはそのコーナーキックのこぼれ球を中央で待ち構えていた10番近藤くんが豪快なミドルシュートを放ち、相手に一矢報いるゴールを決めた。

この後もアブレイズは懸命にゴールを目指すのが、Wingsも堅固な守りをみせ、試合終了のホイッスルが鳴り響く。

終始相手自陣で多彩な攻撃を魅せたWingsと、前半の大量失点にも諦めずに守備を立て直し、終盤に1得点奪ったアブレイズとの一戦は、Wingsが6-1で勝利し決勝へと駒を進めた。

最後まで走り切り戦った両チームに、心から拍手を送りたい。

# 平成28年度 千葉市少年サッカー大会 3年生以下の部

## 準決勝 Aコート

日時 2016年 7月 16日(土)  
試合会場 エスタディオ サンフット  
気象状況 天候: 曇り ピッチ状況 人工芝  
キックオフ 9時00分

対戦チーム

高洲コスモス ロッソ

西小中台FC RED

試合結果

4	3	前 半	1	1
	1		後 半	
	-		(PK)	

### 戦 評

天気はいくの曇りだが、夏場の大会としては気温をさほど気にすることも無い天候となり、まずはよいコンディションといえる中での準決勝戦となった。

準決勝戦のAコートは高洲コスモス ロッソ(以下、コスモス)と西小中台FC RED(以下、西小中台)の対戦となった。

試合は定刻にコスモスのキックオフで始まった。開始早々の1分、コスモス48番鹿住くんが自陣から一気に相手ゴール前までドリブルで持ち上がり、西小中台GKもかわして落ち着いて1点目を決める。まさに、相手がこれから集中と言う出ばなをくじく効果的な先制点を挙げ、一気に流れをコスモスに呼び込む。その1分後、またもコスモスは1番田中くんがシュートを決め、西小中台を突き放しにかかる。コスモスは中盤を経由した大きなサイドチェンジなども効果的に使い、西小中台はディフェンスの的を絞れず苦労していたが、試合が進むにつれて西小中台もペースをつかみはじめる。ついに8分、西小中台がコスモスのゴールを襲った。ゴール前で西小中台6番米倉くんが味方からのパスを受けると、落ち着いて相手DFをかわしてシュートを決めその差を1点に縮める。勢いに乗って追いつきたい西小中台と点差を開きたいコスモスのゲームがますます熱を帯びてきた11分、やや押し気味にゲームを進めていたコスモスは、左サイドから流れてきたボールをゴール前に詰めていた42番稲田くんがボレーでゴールネットを揺らし、再びその点差を2点とする。ゲームはこのまま前半を終了し、コスモス3-1西小中台で後半を迎えることとなった。

後半は巻き返しを図りたい西小中台のキックオフで始まる。なんとか後半に先制したい西小中台ではあったが、ペースを握ったのはコスモス。そして2分、コスモスはサイドからの攻撃を組み立ててゴール前にクロスを入れると38番山崎くんが落ち着いてシュートを決め、点差を3点に拡げる。西小中台も、9番長船くん、5番白田くん、16番吉田虎太郎くんのDF陣が懸命のDFを行なうが、コスモスのサイドからの組み立てとタイミングのいい縦へのボールに対応がやや遅れ気味となっている。この後もコスモスは攻撃の手を緩めず、38番山崎くんを中心に西小中台ゴールを襲う。が、西小中台GK19番吉田海聖くんの見事なセーブもあり、得点にはつながらない。残り時間も少なくなる中で点が欲しい西小中台も少ないチャンスを活かし、14分には16番吉田虎太郎くんがドリブルで切れ込み、シュートを放つもコスモスGK29番安倍くんのセーブで得点にはならない。このまま両チームとも得点がないままゲームは終了。4-1の結果でコスモスが決勝戦への貴重な切符を手にする事となった。

両チームとも、選手個々がしっかりと状況を判断しながら仕掛けて打開するという個の技術を大事にしているという印象を強く受けたゲームであった。その意味でも、西小中台も破れたとは言え、これからの成長が楽しみになる一戦であった。両チームの今後の成長が楽しみに、選手全てに拍手を送りたい。